

令和 2 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
農産・蚕糸部門

家族経営における大規模水田経営と高品質・高収量麦生産の取組

○氏名又は名称 内田 修二・内田 聖子

○所在地 愛知県西尾市

○出品財 経営（麦類）

○受賞理由

・地域の概要

西尾市は、愛知県南部に位置し、年間平均気温 16℃と温暖で、降水量も 1,200mm と農業生産の条件は良く、県内でも農業が盛んな地域である。水田作は矢作川左岸に広がる沖積平野と、古くから新田開発された干拓地を中心に行われており、2年3作体系のブロックローテーションによる水田の効率的利用を実現している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

平成 5 年に父母の農業経営に就農した後、平成 29 年に父から経営継承を受け、現在は家族 4 名と従業員 1 名で水稻 45.3ha、小麦 35.6ha、大豆 34.3ha の合計 85.3ha を経営している。また、これまで JA 西三河稲作青年部長や JA 西三河農作業受託部会理事を務め、新品種の現地実証や地域の環境整備活動等に携わるなど組織活動にも熱心である。

・受賞者の特色

(1) 省力化、効率化の徹底による適期作業ときめ細やかな栽培管理

播種作業では、アップカッターロータリーを使用した耕起、施肥、播種の同時作業により、作業時間の大幅な短縮と適期播種を実現している。また、平成 18 年に近隣農家とともに導入した病害防除用無人ヘリコプターにより、労働時間の縮減と適期かつ効率的な防除を実現している。一方、敢えて手のかかる自走式コンポキャスターによる確実かつ丁寧な施用や、手作業による追肥後のムラ直し等のきめ細かな栽培管理を行うことで、単収増加と品質向上を実現している。

(2) 高単収・高品質麦生産の実現

受託部会の役員として、県の農業試験場が育成した「ゆめあかり」の現地試験への協力を通して、品種特性を踏まえた栽培技術を開発した。その結果、令和元年産の小麦の 10a 当たり収量は「きぬあかり」702kg（県平均 549kg）、「ゆめあかり」649kg（同 608kg）と県平均を大幅に上回る単収を確保しつつ、1 等比率も 97.2%と、非常に優れた高収量かつ高品質な麦生産を実現している。

・普及性と今後の発展方向

高性能農業機械の計画的な整備や雇用労働力の導入による作業の省力化・効率化の工夫に加え、家族経営協定等による家族及び従業員の労働環境整備など、家族経営であっても大規模な水田経営が可能であることを示した優良な経営事例である。

今後は、高い収量と品質を維持しつつ年次変動の少ない安定した生産を実現するとともに、さらなる受託依頼への対応による地域の農地管理や、地域の農業環境の保全活動等を通じた地域貢献を目指している。

令和2年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
園芸部門

儲けるは目標ではない！農業経営で人を幸せにし、自分たちも幸せになる

○氏名又は名称 有限会社トップリバー（代表 嶋崎 秀樹）

○所在地 長野県北佐久郡御代田町

○出品財 経営（担い手づくり）

○受賞理由

・地域の概要

御代田町は、長野県東部、浅間山南麓に位置する。夏の冷涼な気候を生かし、レタス・キャベツ・白菜などの高原野菜の生産が盛んである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

直営農場約60haでレタス、キャベツ等約2,600tを生産するほか、系列農場からの集荷・出荷も行う。総取扱数量は約6,100t、農産物販売額は約14.3億円。

同社は農業人材の育成に特に注力しており、農業経営者を志す若者を3年～6年間教育して全国各地に輩出、地域農業の核として活躍させている。これまで50名弱の卒業生を輩出しているが、ほとんど離農していない。また、加工業務用向けの独自ルートにより契約栽培及び契約販売を行い、収益の安定化を図っている。

・受賞者の特色

(1) マーケットイン経営を基本とした「儲かる農業」を実践

契約先のニーズに基づく農産物の契約栽培により、得た収益を経営資源に再投資することで顧客にさらなる価値を提供。①従業員、②お客様＝実需者（消費者）、③社会の「お悩み」を解決し、「幸せになること」に貢献することが結果として利益につながる（＝「儲かる農業」）という理念のもとで経営を行っている。

(2) 圃場データから販売情報までを一元的に管理可能な「トップシステム」の活用

圃場毎の標高・土質・地形・地目・灌水可否などの特性や作業時の留意点等を記載した圃場カルテを作成し、圃場からスマートフォンで生育状況や収穫量を入力。これらを出荷先への販売情報と連携させることで、生産から販売までを一元的に管理することが可能な独自のICTシステム「トップシステム」を構築。客観的なデータに基づく生産管理を可能としており、経営の安定化に繋げている。

(3) 大規模経営を可能とする農業経営者の育成メソッド

生産技術のみならず、同社独自の「販売学」や「農業雇用学」を包み隠さず教えることで、大規模経営に必要な知識やノウハウ、ビジネス感覚を持った農業経営者の育成に尽力している。また、家族的担い手育成を基本としており、同社を卒業した農業経営者に対する事業の制限やリベートがない点も特徴的である。

・普及性と今後の発展方向

農業を志す若者を育成し、地域で活躍でき、本人やその家族が幸せになれる「環境」を備える会社で有り続けるとともに、今後も継続して、次世代の就農者育成の「親」として地域農業の核となりうる人材を日本中に輩出していく。

令和2年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
畜産部門

「都府県型放牧酪農」による牛と人にやさしい高位安定経営

○氏名又は名称 佐々木 剛・佐々木 千尋

○所在地 静岡県富士宮市

○出品財 経営（酪農）

○受賞理由

・地域の概要

富士宮市は、静岡県の東部に位置し、東に富士山を望む。茶、野菜、果樹、花きなどの生産が盛んで、農家戸数は1,015戸。そのうち酪農家戸数は68戸で6,250頭の乳牛を飼養しており、静岡県酪農の中心地である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

佐々木剛氏は、昭和35年設立の富士丸西牧場の3代目であり、平成17年に経営を移譲された。カウコンフォートを重視した都府県型酪農経営を進め、年間の1頭当たり平均乳量10,000kg以上の生産を15年以上継続している。生乳は、専務取締役として経営に参加する（株）富士の国乳業を通じて富士地区80校の学校給食向けに供給している。また、飼料コントラクター（収穫作業、土壌改良工事等の受託組織）を設立・運営すると同時に、地域の食育活動にも取り組んでおり、畜産振興に邁進している。

・受賞者の特色

（1）カウコンフォートに配慮した都府県型放牧酪農

107頭の牛から高品質な生乳を年間約1千t生産する優良経営であり、放牧を上手に活用し、快適な牛舎内でのきめ細かな飼養管理により牛のストレスを制御して穏やかな牛群を作り、牛による作業事故5年間ゼロを達成している。

（2）安心して働ける職場環境

家族、従業員の牧場内での作業分担が明確化され、各種作業のマニュアルの整備等も図られている。小さな事故に対しても情報共有がなされ、業務の改善に活かされている。また、従業員に対しては働きやすい環境作りを進めている。労働1日8時間以内を徹底するとともに、1人1休憩室やシャワールーム等の整備、各種休暇、昇給・賞与、11種の手当など、ゆとりのある労働と充実した賞与・福利厚生に取り組んでいる。

（3）女性の活躍

千尋氏は、剛氏の共同経営者の役割を担うほか、静岡県農山漁村ときめき女性会員として活躍し、地域の学校行事や地区行事運営に参加するなど幅広く活動している。

・普及性と今後の発展方向

乳質・乳量のみならず放牧に適した牛の改良や、堆肥をフル活用した計画的な草地管理、良質なサイレージの生産技術、1頭1頭を良く観察したきめ細かな牛の飼養技術などに立脚した高位安定経営は、理想的な都府県型放牧酪農経営モデルと評価できる。今後、（株）富士の国乳業を通じた消費者からの信頼に基づく、経営の発展や更なる地域貢献も期待される。

令和2年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
林産部門

里山整備に配慮した循環型しいたけ生産

○氏名又は名称 河合 清・河合 くに

○所在地 大分県大分市

○出品財産物（きのこ類）

○受賞理由

・地域の概要

大分市は、大分県沿岸部のほぼ中央に位置し、市西部を除いてほとんどが瀬戸内海型気候区の一部となっている。古くからしいたけ生産が盛んに行われており、施設整備や品評会等の実施を通して作業の効率化や技術向上が図られている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

建設業や産業廃棄物処理業などを行う企業を経営していたが、12年前に経営から退いたことを契機に、しいたけ栽培を高齢の兄から引き継いだ。前職の経験を活かし、小型建機や施設栽培を積極的に導入するなど規模拡大を図った結果、県内でも有数の生産者となった。露地とハウスを組み合わせた気象条件に左右されにくい収穫量の確保を目指す工夫を行い、経営の安定化を図っている。

・受賞者の特色

(1) 環境に配慮した循環型しいたけ生産

河合氏は、散水や通風管理など気象条件にあったきめ細やかな栽培管理に取り組むことで、良質な天白や茶花冬菇、生しいたけを生産している。さらに、しいたけ原木を地域の荒廃したクヌギ林から採取し、伐採後に植栽等を行うことで里山の再生を図るとともに、生産した玉切り原木を新規参入者や高齢の生産者にも供給している。また、使用後の廃ほだ木を放置竹林から採取した竹チップと混合して堆肥化し、近隣農家に配布するなど、環境配慮や地域貢献に努めた取り組みを行っている。

(2) 販路の確保と女性の活躍

河合氏の妻が経理面で経営を支える一方、息子の妻は直売所「菜葉屋」の運営を担っており、加工品の開発や、他の直売所への出荷を通じて、直販の拡大に努めている。さらに、原木生しいたけが高値で取引されている京都市場への生しいたけ出荷や大手ECサイトでのネット販売、ふるさと納税返礼品での販売等、販路拡大にも取り組み、大幅な販売量増加と収益増加を達成している。

・普及性と今後の発展方向

市の生産者組合や原木生椎茸出荷部会で会長を務め、新たな原木供給システム構築、若手生産者に対する栽培技術の指導、季節的に生しいたけを生産し経営の安定化を図る手法の普及等に尽力している。また、クヌギ100%菌床を使用した高品質しいたけ生産等、新しい取組を導入することで若い世代の新規参入を図る計画を持っており、しいたけ生産の活性化に向けた地域リーダーとしての活躍が期待される。

令和2年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
水産部門

漁師の潮煮3種セット

○氏名又は名称 末永海産株式会社（代表 末永 寛太）

○所在地 宮城県石巻市

○出品財産物（水産加工品）

○受賞理由

・地域の概要

石巻市は、宮城県の東部、仙台平野の東側中央部に位置し、東を仙台湾、南を阿武隈高地、西を奥羽山脈、北東部を北上山地等に囲まれた、多種多様な魚介類が豊富に水揚げされる水産都市である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

出品財は、石巻の漁師が言い伝えてきた「炭火で炙った殻付きの牡蠣やホタテから出てくる旨味エキス（潮）ごと一緒に食べるのが、一番美味しい。」というその食べ方と旨味、生に近い食感を出すため、素材の旨味を引き出す独自の低温加熱製法により商品化し、独自の低温加熱製法でそれを再現した。

・受賞者の特色

（1）素材へのこだわり

新鮮な生の素材に塩も水も使わずに加熱調理しているため、最も重要となる要素は鮮度である。ホヤ、ホタテの原料調達は、早朝5時前に冷却した殺菌海水をタンクに入れて県内の契約した生産者から原料を受け取り、自社のむき身工場まで運んで即日加工処理し、製品化凍結まで行う。牡蠣については県内で評価の高いものを厳選して自社に持ち帰り、24時間浄化を行って剥き加工の翌日には製品化、凍結まで行う。

（2）新たな販路開拓への取組

震災後、販路を開拓・拡大するため、直販事業部、輸出事業部、EC事業部を新たに創設した。また、これまでとは違った客層が取り込めるよう、宮城県等の紹介による復興アドバイザーやデザイナーと商品コンセプトの説明や試食等を繰り返しながら協力・助言を得て、顧客ターゲットやニーズを明確に見定めた商品創りを行った。

・普及性と今後の発展方向

末永海産の会長、社長は代々続いている漁師の系譜であり、石巻の価値の源泉は漁師にあるとの理念の下、石巻で獲れた海産物を最大限に活かすことを使命として活動してきた。今後は、石巻の資源を活用した陸上養殖など養殖等の生産分野にも挑戦したいと将来を見据えている。

令和2年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

直売・カフェの展開による“みりょく”あるお茶づくり

○氏名又は名称 農事組合法人八女美緑園製茶（代表 江島 一信）

○所在地 福岡県八女市

○出品財 経営（販売革新）

○受賞理由

・地域の概要

八女市は福岡県の南部に位置し、気象・土壌条件に恵まれた全国有数の高級茶の産地である。八女市、筑後市、広川町からなる八女地域の耕地は5mから700mという標高差を持ち、気温の日較差などの内陸性気候と年間1600mm～2400mmに及ぶ降水量、古成層土壌に含まれる豊富なミネラル分などが茶の生産に適している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

農事組合法人八女美緑園製茶は、5名の茶業農家が、共通課題の解決と直売による新たな経営展開構想に賛同し、平成8年に結成した農業法人である。煎茶・碾茶の生産と併せて、加工製造、直売、緑茶喫茶店など魅力ある茶業経営を展開している。構成員全戸に後継者がおり、うち1戸は従業員への第三者継承を行っている。

・受賞者の特色

（1）碾茶栽培への早期の取り組みと茶の直売及び茶を原料とする商品開発

抹茶の業務用需要にいち早く対応して、高収益な碾茶生産に取り組んだ。また、幹線道路沿いに直営店を設け、茶葉や食品メーカーと共同開発した抹茶を使った菓子や食品を販売するとともに、隣接するカフェでは、茶と茶そばや抹茶アイスなどのデザートを提供している。さらに、台湾・ベルギーへの茶輸出にも取り組んでいる。

（2）徹底した土づくりと栽培管理

八女美緑園製茶の茶は、「味の濃厚さ」や「うまみの強さ」を特徴とする。分析キットを所有して、毎月、社内で土壌分析を実施し、分析結果に基づいて自家配合肥料を製造し茶園に適正投与するなど、環境負荷低減、経費削減に努めている。

また、茶園での栽培管理から煎茶工場及び抹茶工場での加工に至る全ての工程において、ASIAGAPを取得するなど、安全面、衛生面に細心の注意を払っている。

・普及性と今後の発展方向

需要に応じた茶生産を行い、6次産業化に取り組み、高い収益性を上げるという普及性を持つ。今後、組合員の茶園面積拡大と効率的生産の推進、輸出拡大のための有機JAS認証取得、品種の適正化と高樹齢茶園の更新、後継者の育成に加え、引き続き魅力ある店舗づくりやカフェ運営により、地元内外の新規顧客獲得に努めていく。

令和2年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

除雪も駆除も援農も 山間地で関係人口を増加させるむらづくり

○集団等の名称 湯原集落協定（代表 山田 益広）

○所在地 宮城県刈田郡七ヶ宿町

○受賞理由

・地域の沿革と概要

七ヶ宿町は宮城県南西部、山形・福島両県境に位置する県内有数の豪雪地帯で、山林が9割以上を占める山間地域である。湯原集落は、町の最奥地、白石川源流に位置し、古来より「そば」と山間地の清流を活かした米の生産が行われている。

集落の主産業は農業であるが、世帯数の減少や高齢化が進み後継者も少なく、将来的な農地の維持管理と集落機能の維持が危惧される状況にあった。

・むらづくり組織の概要

湯原自治会の全面的な協力のもと、中山間地域等直接支払交付金の活動母体である湯原集落協定（以下、「集落協定」）を中心に、集落の認定農業者、農業法人、多面的機能支払交付金を活用した活動組織である湯原集落農業協力隊（以下、「農業協力隊」）及び七ヶ宿町との連携体制により運営されている。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 担い手への農地集積を進めるため集落協定を締結し、また、集落内の非農家も参加して農業協力隊を立ち上げ、耕作放棄地の発生防止と多面的機能の維持、鳥獣被害防止対策に取り組み、平成12年以降作付面積約47haを維持している。米づくりでは、「七ヶ宿源流米ネットワーク」が組織化され、土壌改良や水質浄化により、全国食味コンクールで金賞を受賞した良食味米を栽培している。
- ② 播種時期の分散による気象リスクの回避や開花期間中の放蜂による結実率向上を図るなど、そばの栽培方法を工夫し、平均単収60kg/10a（県平均22kg/10a）と高収量を実現している。

（2）生活・環境整備面

- ① ボランティアによる鳥獣害防護柵設置や除排雪により、農地の維持・管理、生活環境を維持している。自治会では、ボランティア募集のチラシづくりや大学等への声かけなどを行い、援農ボランティアの運営等も担っている。  
集落協定では、来訪するボランティア等と集落住民との交流の場を積極的に作り出すとともに、地区の夏祭り等を通して非農家との交流にも取り組んでいる。
- ② 地元企業社員とその家族が湯原集落を訪問、七ヶ宿源流米ネットワークと共同で農作業体験を行うイベントが開催されている。また、農業法人が町内そば屋とともに「新そばまつり」を開催し、毎年2,000人を超える人出で賑わっている。
- ③ 集落内非農家は農業協力隊に参加し、農家との協働による集落の維持管理に取り組み、同隊の隊長の任を担っている。女性は景観づくりや交流時における食事提供などに加え、女性中心の自治会組織や女性のみで構成された郷土芸能組織もあり、集落では多くの場で女性の活躍が発揮されている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、地域の課題に対し地域の内外からボランティアを募る仕掛けづくりに成功している事例であり、今後とも取組の継続が期待できる。

条件不利な山間地域にあって、集落の課題解決を関係人口の増加に結びつけながら、各組織が連携し合って農地と生活の基盤を管理している本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。